長野市立博物館

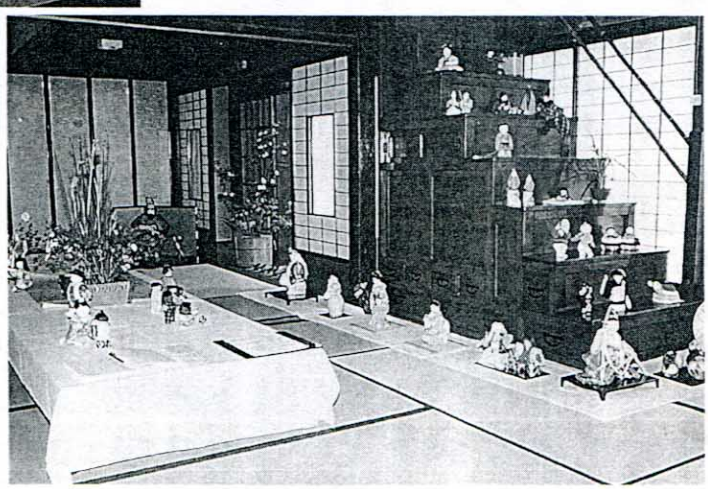
博物館だより

第53号

2001. 7. 10

Nagano City Museum

◀日本画展 ―市民ギャラリー―
（4月25日～5月13日）
桜会（城山成人学校講座ＯＢの皆さん）による日本画19点が展示されました。
〔市民ギャラリーは、土蔵を改造したもので、間口7.5m、奥行き4.0mの広さです。〕



▶木目込五月人形展 ―多目的室―
（5月26日～6月3日）
端午の節供ということで、「五月人形」をテーマに生け花とともににぎやかに展示していただきました。
〔多目的室は8畳の部屋が続きで2部屋あります。〕

門前商家 ちょっ蔵おいらい館が開館

4月25日（水）午前10時、ファンファーレの音と共にテープカットが行われ、開館となりました。前日までの晴天と打って変わって、あいにくの雨模様でしたが、約120人の方々に開館式にお越しいただきました。

「お出掛けください」と言う意味の方言は長野地域でも色々あるようですが、その中のひとつ「おいらい」という語を用い、大勢の方に気軽に立ち寄っていただきたいという思いを館名に託しました。

「おいらい館」は門前町に残る伝統的な商家としての雰囲気を味わっていただくと同時に、ここで出会う人と人、人とモノとの接点や交流を大切にして活動することを主眼としています。これまで博物館では、常設展、特別展、移動博物館等を通じていわば行政の側から市民の皆さんに向けて情報を発信する活動を行ってきましたが、このおいらい館では市民の皆さんからの情報や企画を市民相互に共有し、発展させていくための空間づくりのサポートをしていきたいと考えています。ようやく第一歩を踏み出したところですが、早速日本画展、木目込五月人形展、書、茶会、名所図会彩色さし絵展が催され、この他にも明治時代写真展、句会、俳画展、絵手紙展、風景写真展、生け花展などの申込みがあり、これからの展開に期待を抱いています。

（山口　明）

開館20周年記念特別展

「長野盆地の10万年 ―暮らしと環境のメッセージ」

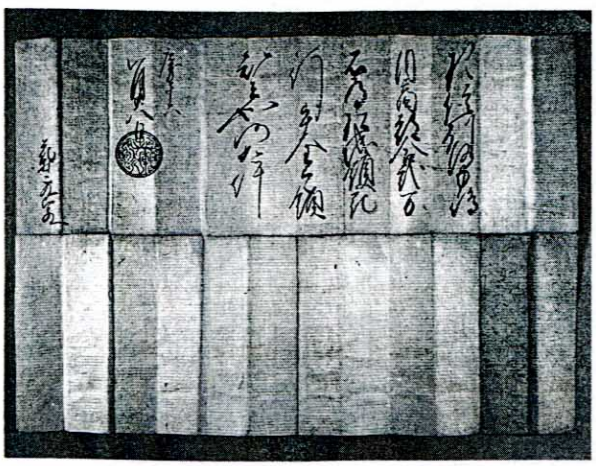
10月 6 日(土) ～ 11月23日(木)

当館は昭和56年（1981）9月23日に開館し、おかげさまで今年開館20周年を迎えました。博物館では開館以来、長野盆地の自然と人々のかかわりを究明し、新しい時代の文化創造の拠点を目指し、市民の皆様とともに活動してきました。

20年の節目、21世紀の幕開けにあたり、もう一度、私たちの生活の舞台である大地と自然、そこに暮らす人々の生活を見直してみようと上記のタイトルの特別展を行います。

私達の周りには、地形・地質・気候・動植物・水といった多様な自然環境が広がり、それらに育まれた人々の生活があります。人間の歴史は自然を改変、利用し、これに適合させながら生活を展開してきました。ここでは展示の柱をいくつかご紹介します。

人が自然に働きかける大きな行為の一つが開発です。下の写真を見てください。この文書は、慶長16年（1611）8月28日、当時北信濃の大半と越後をあわせ50数万石の太守松平忠輝（たいしゅまつだいらただてる）から、重臣の花井三九郎（吉成）への宛行状（あてがいじょう）です。花井はこの7年前（慶長9年）、忠輝から松代城代を命じられており、この年改めて川中島に2万石を与えられ、施政に当たることになったのです。花井吉成・義雄父子の業績として、裾花川の流路の変更、裾花川水系や犀川水系の堰（せき）などの治水整備などを行ったと伝えられています。この時期、全国的に河川のつけ替えや溜池を築くなどの大規模開発が行われました。花井の事業は、実際にはそれ以前からの整備の総仕上げ的な意味が強いと思われますが、なぜ花井父子の業績といわれるようになったのか、市域の他の開発伝承と比較しながら展示したいと思います。



松平忠輝宛行状（花井道子氏蔵）

また、開館当時では考えられないほどの自然科学分野の進歩を受け、土の中の花粉分析などのデーターにより、各時代の自然環境を復元検討することが可能となりました。そうした成果も展示します。

こうした科学の進歩の反面、地震や洪水、地すべりといった自然界の脅威から、なお免れてはいないのも事実であり、人知を超えた災害に対して、神仏に祈るといった信仰は現在でも続いています。こうした、心のあり方も展示の柱です。

今回の特別展では、総合博物館である特徴を活かして、地質・動植物・考古・歴史・民俗などの協同作業により、長野盆地の新しい生活環境像を展示してみたいと思います。

この特別展に関連して、さまざまな分野から下記の4回の連続講演会を行います。多様な切り口から、長野盆地の10万年を振り返ります。多くの方のご来館、聴講をお待ちしております。

（降幡浩樹）

演　題	講　師	日　時
変わりゆく長野の自然環境	**中村浩志氏**（信州大学教育学部教授）	7月22日(日) 午後2時
記憶と歴史 ―「土地の記憶」について考える	**内山　節氏**（哲学者）	8月12日(日) 午後2時
長野盆地の地形環境について	**小林　詢氏**（信州大学教育学部教授）	10月28日(日) 午後2時
長野盆地における新田開発と用水	**滝澤公男氏**（元長野県土地改良史編集委員長）	11月18日(日) 午後2時

茶臼山自然史館企画展「里と山の自然」

7月28日(土) ～ 9月24日(日)

「自然」というと私たちはふつう、高い山や高原、深い渓谷などを思い浮かべます。しかし、私たちの生活域の周りにも多様な自然環境があり、そこにもさまざまな動植物が生息しています。例えば、近頃話題になることの多い「里山」は、薪や柴を刈ったり、肥料にするために落ち葉を掃き集めたり、山菜やキノコを採るなど、人の活動によって環境が維持されてきた自然です。半ば人工的に作られた自然ですが、タヌキやキツネをはじめとして、日本の代表的な動植物の多くが生息する、豊かな自然環境を維持してきました。しかし、昭和30年代頃からガスや電気が普及してきたことによって芝刈りなどの手入れが行われなくなり、現在の里山では荒廃が進んでいます。また、近年の都市化や開発は、里山や水辺などの環境に大きな影響を与え、そこに生息する動植物にもさまざまな変化が起きています。

展示で紹介する生物や現象は、長野の自然のごく一部にすぎませんが、身近な環境問題について考えるきっかけにしていただければ幸いです。なおこの企画展は、この秋に博物館で開催する特別展の関連企画です。秋の特別展の方も併せてご覧いただきたいと思います。

（畠山幸司）

里山を代表する動物「たぬき」
（関谷圭史氏提供）

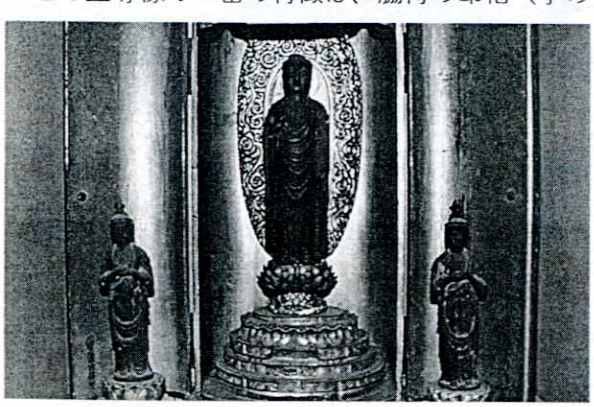
特別公開　長野県宝

小谷村常法寺　銅造阿弥陀三尊立像

7月22日(日) ～ 8月19日(日)

北安曇郡小谷村常法寺には、銅造阿弥陀三尊立像、いわゆる善光寺仏が伝えられています。寺伝では、もと真言宗寺院であった薬師院の本尊といわれ、平成8年に長野県宝に指定されています。三尊の真中、中尊の阿弥陀如来の像高は37.3cm。両脇の勢至・観音菩薩が約28.0cm。善光寺縁起などで伝わる中尊1尺5寸（約45cm）、脇侍1尺（約30cm）とされる善光寺仏よりもやや小ぶりな像です。

この三尊像の一番の特徴は、脇侍の印相（手の形）です。善光寺仏の脇侍は、胸の前で両手のひらを広げて重ねる梵篋印とよばれるものですが、常法寺の脇侍は、上下に重ねた下の手の親指と人差し指を結んでいます。



また、両脇侍の裳裾の形が異なっていたり、手の組み方が左右非対象となっていることから、別々の鋳型から造られていることもわかります。

三尊とも火災にあったため、肌などに多少損傷もありますが、全体に肉厚は均一で鋳上がりも良好で、大変丁寧に造られていることがわかります。本像は、髪形などから14世紀前半、鎌倉時代後半の作とされ、光背と台座は後補です。

常法寺は越後から信州に塩や海産物を運んだ「塩の道」と呼ばれる千国街道沿いの要地に立地しています。越後からさらに都へと通じる街道の重要なポイントに伝えられた本像は、善光寺信仰の伝播を考える上で、貴重な仏像といえます。

村外での一般公開は今回が初めてです。ぜひご鑑賞ください。

（降幡浩樹）

リラックスプラネタリウム

プラネタリウムは星の話を聞くだけの空間ではありません。そこは星空を疑似体験する場所でもあります。星空をゆったりした気持ちでゆっくり眺め、さらに心がなごむ音楽があればきっと疲れもいやされるのではないでしょうか。また、星の輝きをプラネタリウムの中でも再発見できないだろうか。そんな発想から「リラックスプラネタリウム」が生まれました。

6月2日（土）と、7月14日（土）の午後6時30分から約40分間、静かな音楽と降るような星の下でお過ごしいただきました。当館としては全く解説のないプラネタリウムは今回が初めての試みで、小さいお子さんから年輩の方までそれぞれの過ごし方をしていただけたと思います。「リラックスプラネタリウム」の利用の目的は千差万別です。ゆったりと流れる40分、自分なりのリラックスプラネタリウムを体験してみてください。

次回のリラックスプラネタリウム
8月4日（土）午後6：30～7：10
※スターウィーク中につき入場無料です。

リラックスプラネタリウム使用曲

6月2日（土）
- KUMAGERA　・放課後の音楽室
- イルシオン　・いにしえの星
- 無伴奏チェロ組曲1番ト長調：Prelude
- Between Earth and Sky
- サザンクロスの祈り～New World
- Heaven In A Wild Flower
- THERE IS A SHIP
- ニュー・シネマ・パラダイス

7月14日（土）
- 夏時間　・Mountain Wildflower
- Asian Sea　・in Aquascape
- 夜間飛行　・五月の風
- G線上のアリア［J.S.Bach］
- THE MEMORY OF TREES
- カノン［Pachelbel］
- サマーガーデン

（大蔵　満）

夏休み向け子どもわんぱく教室開講

博物館では、小中学生を対象とした事業として、昨年度より「子どもわんぱく教室」を開催しています。

今年度は、6つの行事が予定されています。5月～7月には、「カブトムシを飼育観察しよう」が全3回の日程で茶臼山自然史館にて開講しています。この教室は、5月12日(土)・13日(日)、6月9日(土)・10日(日)に実施され、それぞれ50人前後の子どもたちが参加しています。次回は、7月14日(土)・15日(日)で、カブトムシの成虫を採集する予定です。

夏休み向けに以下の教室を実施します。各教室とも保護者同伴になっています。また、申込み多数の場合は、抽選になります。締め切り日までに電話で博物館まで申し込んでください。大勢の参加をお待ちしています。詳細は博物館までお問い合わせください。（畠山幸司）

▲5月12日カブトムシ飼育観察会の様子

教室名	内容	日程	対象	定員	参加費	締め切り
竹でおもちゃを作ろう	竹とんぼやコマ作り	8／2(木)	小学生～中学生	26人	300円	7／25(水)
化石を採集しよう	化石採集とクリーニング	8／7(火) 8／8(水)	小学生～中学生	20人	500円	7／29(日)
古代にタイムスリップしよう	遺跡発掘体験	8／9(木) 8／10(金)	小学4年生～中学生	20人	無料	7／31(火)